

教 育 委 員 会 定 例 会 会 議 録

1 日 時

平成30年 8月16日(木)

開会 13時00分

閉会 14時30分

2 場 所

教育委員室

3 出席者及び欠席委員の氏名

出席委員 廣田恵子教育長、森脇健夫委員、岩崎恭典委員、黒田美和委員、
原田佳子委員

4 出席職員

教育長 廣田恵子(再掲)

副教育長 木平芳定、次長(教職員担当) 梅村和弘、

次長(学校教育担当) 宮路正弘、次長(育成支援・社会教育担当) 森下宏也、

次長(研修担当) 山本嘉

教育総務課 課長 榎屋眞

学力向上推進プロジェクトチーム 担当課長 吉村元宏、

課長補佐兼班長 水野和久、

充指導主事 奥村政貴

教職員課 課長 早川巖、班長 山北正也、班長 奥山充人、班長 大屋慎一、

主幹 水谷匡利、主幹 湯浅秀紀、主任 佐野真也

社会教育・文化財保護課 課長 山本寛二、課長補佐兼班長 樋口慎也

環境生活部文化振興課 課長 辻上浩司

県立図書館副参事兼課長 山口春年

5 議案件名及び採択の結果

審議結果

議案第16号 職員の懲戒処分について

原案可決

議案第17号 三重県立図書館協議会委員の任命について

原案可決

6 報告題件名

報告 1 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について

報告 2 平成31年度三重県公立学校教員採用選考試験第1次選考試験の結果
について

7 審議の概要

・開会宣言

廣田恵子教育長が開会を宣告する。

・**会議成立の確認**

全委員出席により会議が成立したことを確認する。

・**前回審議事項（7月27日開催）の審議結果の確認**

前回定例会の審議結果の内容を確認し、全委員が了承する。

・**議事録署名者の指名**

岩崎委員を指名し、指名を了承する。

・**会議の公開・非公開の別及び進行の確認**

議案第16号及び議案第17号は人事に関する案件であるため非公開で審議することを決定する。

会議の進行は、公開の報告1及び報告2の報告を受けた後、非公開の議案第16号、及び議案第17号を審議する順番とすることを決定する。

・**審議事項**

報告1 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について （公開）

（吉村学力向上推進プロジェクトチーム担当課長説明）

報告1 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について、別紙のとおり報告する。平成30年8月16日提出 三重県教育委員会事務局 学力向上推進プロジェクトチーム担当課長。

本年度の全国学力・学習状況調査につきましては、平成30年4月17日に実施され、平成30年7月31日に国から結果が公表されたところです。その結果について報告させていただきます。

報告に当たりましては、教科に関する調査の結果の概要、児童生徒質問紙調査、学校質問紙調査結果の概要、今後の対応について報告させていただきます。

まず、1ページをご覧ください。「1 教科に関する調査結果の概要です。」（1）平均正答率としまして、本年度、小学校、中学校を合わせ、10教科中9教科で県の平均正答率が全国平均を下回る結果となりました。小学校では5教科全てにおいて、全国平均を下回るとともに、活用力を問うB問題で、昨年度と比べて全国との差が広がりました。

中学校では数学Aの1教科で全国平均を上回りましたが、昨年度と比べて、国語A、数学Bで全国との差が広がりました。

（2）平均無解答率では、本年度、10教科中6教科で全国平均よりよい結果となっています。小学校では5教科中2教科、中学校では5教科中4教科で平均無解答率を下回る結果となりました。小学校国語A、算数A、中学校数学Bでは、これまでで最も改善が図られ、子どもたちの頑張りが認められます。

そして、(3)の右の表、同一児童生徒の伸びを見た場合、中学校3年生は、小学校6年生時の調査と比べ、国語A、算数・数学A、理科で改善が見られました。

2ページをご覧ください。この資料は、平成27年度から平成30年度までのそれぞれの教科について、領域別の推移を示しています。表の右側に矢印を記しておりますが、平成29年度と平成30年度の全国平均の正答率の差を領域別に見ますと、小学校では国語の「読むこと」、算数Bの「数と計算」「数量関係」など、割合につながる領域において、矢印が下向きとなっており、課題が見られます。中学校では国語の「話すこと・聞くこと」、数学の「資料の活用」において課題が見られます。

4ページをご覧ください。児童生徒・学校質問紙調査の結果の概要として、「みえの学力向上県民運動」の指標に係る質問項目について、平成26年度からの推移を示しています。本年度、質問紙から削除された項目もいくつかありますが、小中学校とも、学校・家庭・地域のかかわりによって、子どもたちの「自尊感情」や「自己肯定感」「やる気」などの調査項目は昨年度より更に改善されています。一方で、家庭における学習時間、授業以外の読書時間は改善されず、依然として課題となっています。

8ページをご覧ください。(2)は、学校質問紙における学校の取組状況についてです。まず、①のアに示すように、全国学力・学習状況調査等の活用について、肯定的な回答の割合は、小中ともに95%を超えていますが、昨年度より減少しています。さらに、「よく行った」と回答している割合も、小中ともに昨年度よりも減少しています。

また、②のアに示すように、授業改善PDC Aサイクルの確立について、「よくしている」と回答している割合は、小中学校ともに昨年度から増加していますが、全国と比較すると、かなり低い状況にあり、年々、全国との差も広がっています。

10ページをご覧ください。児童生徒質問紙調査に見られる子どもたちの状況についてです。(3)の①に示すように、家庭における学習習慣・読書習慣について、小中学校ともに家庭での学習1時間以上、授業以外での読書時間10分以上の回答割合は年々増加していますが、全国と比較すると、大きな差があります。

本年度、スマホの使用時間に関する質問項目はありませんでしたが、11ページに示す「放課後の過ごし方」の質問項目では、小学校では家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしていると回答した児童の割合が、最も高くなっています。

中学校では、学校の部活動に参加していると回答した生徒が最も高いのですが、次いで、家でテレビやゲーム、インターネットをしていると回答した生徒の割合が高くなっています。

12ページをご覧ください。(4)地域とのかかわりについてです。児童生徒の地域行事への参加については、全国と比較して、引き続き高い状況にあります。地域社会でのボランティア活動への参加は、全国と比較しても低い状況が続いています。

先ほども報告させていただきましたが、(5)の①で示すように、子どもたちの自尊感情、自己肯定感が年々高くなってきています。

さらに、②で示すように、新しい問題を解いてみたい、できるようになりたい、諦めずに方法を考える、簡単に解く方法を考える、といった算数・数学の学習に対する

興味関心は、継続的に全国を上回っている状況です。

今後、子どもたちの頑張り、やる気に応えていくために、さらに改善に取り組んでいく必要があると考えます。

14ページをご覧ください。「5 今後の対応について」です。(1)市町との連携による学校支援として、県と市町で学校の取組状況や、子どもの学習内容の理解・定着状況を確認していくことの重要性について共通理解を図り、学校への支援を進めたいと考えています。

(2)経年的な課題の克服に向けた取組として、学校の活用状況や子どもたちの学習内容の理解と定着を確認するという視点を重視して、「わかる・できる育成カリキュラム」の普及などの取組を進めていきます。

また、少人数指導については、小学校算数と中学校数学の少人数指導に取り組む学校において、「効果的な少人数指導推進ガイドブック」を踏まえつつ、70%で主として習熟度別指導を実施し、学習内容の理解と定着を図ります。

新任管理職、若手教員が増加する中で、教員研修へ学力向上の取組を位置づけ、教員の理解を深めるとともに、校長会との連携により校長を中心とした学力向上の取組を進めていきます。

また、家庭における生活習慣の確立に向けて、「みえの親スマイルワーク」の活用拡大を図るとともに、読書習慣の確立に向けて、全ての児童生徒が読書に親しむことができるよう取組を進めます。

地域による学習支援については、中学校区における地域未来塾等、地域で学習支援を行う団体と学校の課題を共有し、子どもたちへの支援を行うことについて市町教育委員会と協議を進めていきます。

今後、総合教育会議や市町教育長訪問等での意見を踏まえ、平成30年度下半期の取組について検討を進め、市町教育委員会との連携により、9月以降、各学校における取組につなげてまいります。

以上、報告を終わります。

【質疑】

教育長

それでは、報告1については、いかがでございましょうか。

原田委員

この資料にはないんですが、新学習指導要領で英語の教科化に対して、予備テストみたいなのが三重県の中でも、ピックアップされた学校でされていると思うんですが、その辺の調査とか進捗状況はいかがでしょう。

学力向上推進プロジェクトチーム担当課長

5月に試験の実施が行われ、その内容について、これまでの出題の形式と違い、例えばリスニングで2回読まれず、1回で答えなければならないとか、制限時間内で答えなければならないとか、30語で自分の考えを書くとかいった形式の問題がありました。そういったことは学校にも周知してきているわけですが、正式には12月に文部科学省から来年度の実施の方向性について、おそらく公表されると思いますので、

それを受けて学校に周知していきたいと考えています。

英語の授業に関しての、例えばワークシートといったものを試験実施を踏まえて作成して、学校に提供していきたいと考えております。

原田委員

予備テストとはいえ、多分、求められているものがすごく集約されて、新しい学習指導要領、又は新大学入試制度に向けてのところだと思いますので、そこもしっかり把握、調査をお願いしたいと思います。

岩崎委員

1 ページのところの同一児童生徒が小学校6年生から中学校3年生のときに、どう伸びたか、あるいは、どう伸びなかったかというのが、経年的な調査をやっている一番大きな意味かなという気はしていて、それを見ると、やっぱりBの部分になかなか伸びていないということは言えるのかなと思うんですが、そうすると、そのBの部分で見ると、先ほど指摘もありましたが、結局、小学校であれば、「割合」であるとか、「読むこと」「話すこと・聞くこと」、中学校であれば「資料の活用」ですか。結局、教育委員会ですべて議論されている「読む」、そして「理解する」という、その部分がなかなか同一児童生徒の伸びが全国に比べると、あまりよくないという理解でいいんでしょうか。

学力向上推進プロジェクトチーム担当課長

書くことに対しては、問題を解いていこうとする姿勢、これは無解答率のほうでも高まっているというところはあると思うんですが。

岩崎委員

改善されてますよね。それから、新規の問題を解きたいという意欲もあるんですね。

学力向上推進プロジェクトチーム担当課長

ただ、問題を読み解いていく力であるとか、問われたことに対して適切に書く力であるとか、そういったところを更に伸ばしていく必要がある。そういったことを授業の中でも更に取り入れて、子どもたちに学習指導要領が求める力を身につけさせていかなければならないと考えております。

岩崎委員

それだけに、教室でできることは、おそらくいろんな形でこれから教材も改善されるだろうし、やっていかれるんでしょうが、15ページに書いてあるように、家庭における読書習慣の確立とか、そういうものが、より一層求められるんじゃないかと思うんですが、その点に限って、三重県と、例えば、産業構造などが似ているような県で、家庭教育をどういうふうにやっていっているのか、ちょっと研究されておく必要があるのかなという気がするんですね。

家庭教育の話はかなり大きくウェイトを占めているのかなという気はしますので、福井とか石川とか、よく言われる話ではありますが、三世代同居でおじいちゃん、おばあちゃんがずっと面倒をみるような、そういう家庭が多いようなところと違って、三重県と産業構造的に似ているようなところで、こういう傾向をどういうふうに変更しているのかということを知りたいという気がしてまして、学校でいろん

な取組をしていただいているのは当然であります。家庭への投げかけ方として、生活習慣と読書習慣、あと、地域における学習支援、この3つをもっと方向化していくためにも、その種を少しほかの自治体、県レベルなのか自治体レベルなのか、県内でもいいと思うんですが、何らかの形でもう少し水平展開できるようなものが、具体的な事例があればいいなと思っています。そこをご検討いただけますでしょうか。

学力向上推進プロジェクトチーム担当課長

ビンゴカードであるとか、ビブリオバトルとか、そういった取組として、子どもたちが読書に親しむ機会をつくってきておりますが、さらに他府県の状況も調べて、ヒントとなるものを探っていきたいと思います。

岩崎委員

それはぜひ、お願いしたいと思います。

森脇委員

2つありまして、1つは1ページの過去4年間の平均正答率等の推移というのがありますが、これは、総合教育会議でまた議論をせざるを得ないと思うんですが、平成19年の始まった年から経年比較の折れ線グラフがほしいと思っています、つくっていただけないでしょうか。そんなに難しい話ではないかと。つまり、最近の傾向だけじゃなくて、全体を把握する必要があるんじゃないかと思っています。それが1つ。

それから、もう1つは、14ページで小学校・中学校への学校訪問をされているということで、市町の教委と多分連携して訪問がなされると思うんですが、訪問は前からやっていますね。同じやり方でやっていこうとしているのか、それとも、今年は何か観点の重点化とかいうようなことがあるのか。つまり、例年と同じように回っていても、多分、来年度とかその次の年のことを考えると、あまり効果がないかもしれないと思ったりするものですから、そのあたりをどういう聴き取り調査をするのかとか、あるいは、その結果をどういうふう処理して、あるいは、公にするつもりはないのかとか、そのあたりを少し聞いてみたいのですが、いかがでしょうか。

学力向上推進プロジェクトチーム担当課長

まず、1点目の資料につきましては、作成させていただきたいと考えます。

学校への支援としまして、昨年度、下半期ですが、それまでの学校訪問については、どちらかというと県の取組の紹介が中心であったわけですが、昨年度の下半期からは、学校の課題を事前に訪問する指導主事が把握して、そして、校長との面談において、課題認識のあり方や取組方策などを確認しながら、スケジュール感を持って取り組むように学校訪問において確認し、1月に取り組めたか確認をするというやり方に改善しました。

そういったところで2点、反省点がありまして、1点は、訪問した指導主事が、その学校へ行って、その課題を所属長の自分が、十分聴き取れたかということ、なかなか聴き取れず、課題があるときに市町につなぐという点が不十分であったところで、そのところを1点として改善していきたいと思っています。

もう1つは、取組の状況を確認するまでにとどまっていた、その取組の結果、子どもたちがどこまで学習内容について、理解と把握ができたかという確認にまで至ってなかった。結果として、子どもたちができる状況になったのかどうかということ

でを、学校から聴き取ることが十分できていなかった点があります。そういったところを本年度の学校訪問では改善を加えて、市町と連携を図りながら進めていきたい。そのことを市町と共有しながら進めることによって、学校への支援が更に進むのではないかと考えております。

森脇委員

以前、沖縄の学力の話聞いたときに、沖縄がやっていることは、多分、それが一番ポイントだったんじゃないかと。つまり、かなり徹底的に学校訪問をして、授業も観て、校長の聴き取りをして、研修主任は研修主任で、別室でやっていたりして、校長の言っていることは本当なのかというところまでチェックしているということをやっていました。

学校そのものが、ある程度、選ばれた学校を訪問することになると思うんですね。ちょっと課題のある学校だったりすると思うので、その学校において、校長の言っていることを鵜呑みにするだけじゃないような聴き取り調査の仕方とか、少なくとも授業を少し観ますというぐらいのやり方をやられたほうがいいんじゃないかという気がするのですが、いかがですか。

学力向上推進プロジェクトチーム担当課長

学校訪問をした際に授業を観るということは、これまでも実施してきてはいるんですが、昨年度からは、授業者との面談を通して、例えば、振り返る活動であったり、めあての提示であったり、そういったところに視点を当てて、どうしていくかということなどを指導・助言してきたわけですが、そのあたりももう一度、めあての提示、振り返る活動のあり方を指導主事の中で、再度、共通理解を図りながら指導に当たっていくようにしていきたいと考えております。

原田委員

今の森脇委員の県の教育委員会の学校、校長先生への聴き取りと改善以上に、校長先生が各教員とのコミュニケーションで実態把握することが必要と思います。あるニュースで、すごく成果を上げている学校は、校長先生が密に教員から課題を聴き取るという時間を設けていると。もちろん、校長先生のイニシアチブでそれぞれ任されていく部分もあると思うんですが、そこまで踏み込んでいくと、もっと生徒、教員、校長、みんなが改善に向けていけるんじゃないかと感じたことがあるので、そういったところも踏まえて、今のお話を掘り下げただけであればいいかなと思っています。

黒田委員

8ページや9ページのまさに例えば(2)なんかにも、昨年度「よく行った」「よくしている」とかありますが、この「よく」というのが、何をもってよく行ったかがあまり見にくいというか、そのあたりが何をもってよく行ったかとかあるんですか。

学力向上推進プロジェクトチーム担当課長

質問の中で数量的な分も示している部分もありますが、多くが示されずにある意味定性的な部分で回答してもらっています。

ただ、そのときに肯定的回答か否定的回答かという違いが、まず大きくあると思うんですが、その中でも明解に「よくやった」ということは、自信を持ってできているという状態かと捉えています。そういったところが減ってきているとか、あるいは差

が開いているとかいったところに課題があるのかと捉えています。

黒田委員

弊社も評価制度というのを社員の中で取り入れてはいるんですが、結構、被評価者と評価者の感覚が違いまして、具体的に話をしていくと、それは「よく行った」というんだよというようなかい離が発生したりしていますので、そういうことのないような共有ができればいいかなと思った次第です。

教育長

ほかによろしいでしょうか。

—全委員が本報告を了承する。—

・審議事項

報告2 平成31年度三重県公立学校教員採用選考試験第1次選考試験の結果について (公開)

(早川教職員課長説明)

報告2 平成31年度三重県公立学校教員採用選考試験第1次選考試験の結果について

平成31年度三重県公立学校教員採用選考試験第1次選考試験の結果について、別紙のとおり報告する。平成30年8月16日提出 三重県教育委員会事務局 教職員課長。

1枚おめくりいただきますと、今年の1次試験の合格の状況がありますが、もう1枚おめくりいただいて、今回の加点の誤りに係る追加合格の経緯を示させていただきます。今回の教員採用試験におきまして、加点の取扱いに誤りがあり、一部の受験生に加点の申請が反映されず、受験生の皆様にご迷惑をおかけしたことはもとより、県民の皆様の信頼を損なうこととなりました。深くお詫び申し上げます。

では、事案について説明させていただきます。今回の事案は、8月10日に1次選考試験の合格発表をした後、8月13日に受験者からの指摘により判明いたしました。

教員採用試験の申込手続については、電子申請による申込と郵送による申込手続がございます。郵送による申込手続を行った受験申込者の情報は、入力作業をこれまで外部に委託しておりましたが、今回は採用試験担当者が入力しており、この段階で入力不足がございました。

この採用試験では加点の制度があり、今回の司書教諭の資格以外にも、例えば複数の教員免許を有している場合などがあります。司書教諭の加点状況を反映するには、2カ所、加点を申請しますというところに入れる1カ所と、司書教諭の資格を持っています、もしくは取る予定ですということを入力する2カ所に入力が必要でございましたが、このうちの1カ所のみ、加点申請することを入力するところしか入力がしていなかったため、今回の事態となりました。

この郵送による手続を行った58人のうち、10名の方が司書教諭による加点申請を行っておりました。10名の方については、1名が当日欠席、4名が既に合格しており、5人が不合格でした。

加点を反映した訂正後の得点に基づき、再度、合否判定を行った結果、小学校で1人を追加合格することとしました。当日欠席を除く9人については、8月13日、個別に謝罪をさせていただきまして、8月14日に改めて合否結果を通知させていただきました。

今後は、郵送による申込手続を行った受験申込者の情報のデータ入力について、入力手順及びチェック方法を見直し、再発の防止に取り組んでまいります

1ページにお戻りください。1ページの表は、この新たに追加合格となった1名を加えた表でございます。小学校で521名、合計で1,046名でございます。

今後の日程ですが、8月18日、今週の土曜日に2次の論述、8月21日、来週の火曜日に技能実技試験、8月24日から31日まで面接試験を行い、9月下旬に合格発表の予定でございます。

以上でございます。

【質疑】

教育長

報告2については、いかがでございましょうか。

岩崎委員

先ほど、この入力の実話の話がありました。これは絶対避けなければいけない話だろうと思っています。

入力が2カ所あって、加点するところに入力を入れて、そして、その加点をする対象として司書教諭の資格のところと2カ所入れる。1カ所だったらねるという仕組みにはなっていないのですか。不完全な入力をしているということで。

教職員課長

電子申請の場合は、そのようになっているんですが、手入力のところは、1カ所だけで、そこはそうっていなかったもので、おっしゃるようにここを2カ所入れないと、エラーが表示されるとかというような今後の対策を考えてまいります。

岩崎委員

わかりました。

教育長

ほかにいかがでしょうか。

—全委員が本報告を了承する。—

・審議事項

議案第16号 職員の懲戒処分について (非公開)

早川教職員課長が説明し、委員審議のうえ採決の結果、全委員が承認し、本案を原案どおり可決する。

・審議事項

議案第17号 三重県立図書館協議会委員の任命について (非公開)

山本社会教育・文化財保護課長及び辻上環境生活部文化振興課長が説明のうえ、委員審議のうえ採決の結果、全委員が承認し、本案を原案どおり可決する。